

## 依存傾向やトラブルをかかえている児童生徒には個別に対応しましょう

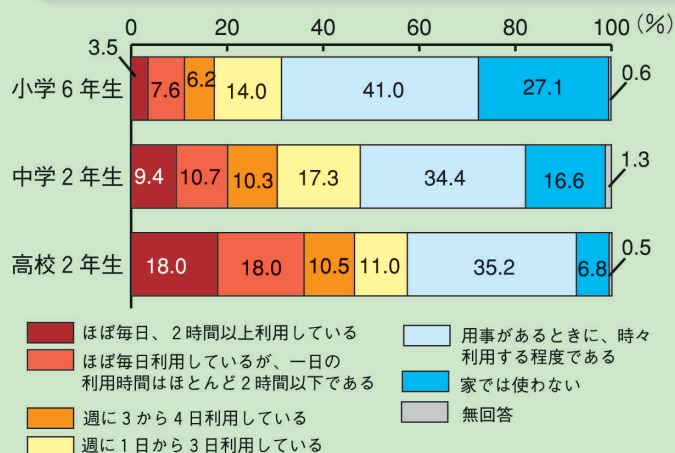


図5 家でインターネット（携帯電話を含む）はどの程度使っていますか。  
(小学校：n=564 中学校：n=457、県立学校：n=555)

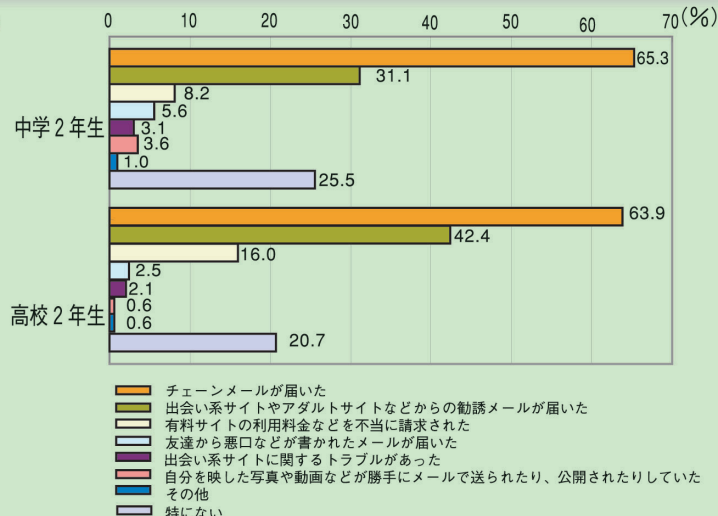


図6 携帯電話を使っていて経験したことがあるトラブルは  
(自分専用の携帯電話を持っていると回答した者(中学校：n=196、県立学校：n=526))

インターネットの利用時間で、「ほぼ毎日、2時間以上利用している」割合は、小・中・高と進むにつれ増加する傾向にあります。長時間の利用により、生活に支障があると思われる子どもが少なからずいるのではないかと予想されます(図5)。

学習がおろそかになっていたり、友人関係がうまくいかなくなっていたりしている子どもは、インターネットや携帯電話の使いすぎが原因ということもありますので、個別に対応することが必要になります。一人一人の利用実態を掌握し、気になる子どもの早期発見に努めましょう。

携帯電話を使っている生徒の多くが、何らかのトラブルを経験しています(図6)。チェーンメールや勧誘メールなどの迷惑メールは、利用者の意識と対応で解決できるものがほとんどです。

しかし、より重大なトラブルである不正請求、誹謗中傷、出会い系サイトに関すること、著作権や肖像権に関することなどを経験している生徒もみられます。一人で悩んでいて相談できない生徒や一人では解決できない問題を抱えている生徒もいると考えられます。日頃から相談しやすい雰囲気やトラブル時には真剣に対応してくれるという信頼関係作りが大切です。

トラブルには、学校だけでは解決できないこともありますので、外部機関と連携しながら対応することも考慮しましょう。

## 学校の実情に応じて指導しましょう

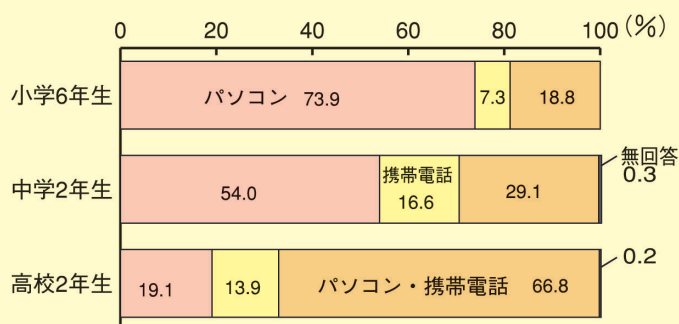


図7 何を使ってインターネットをしていますか。  
(小学校：n=564 中学校：n=457、県立学校：n=545)

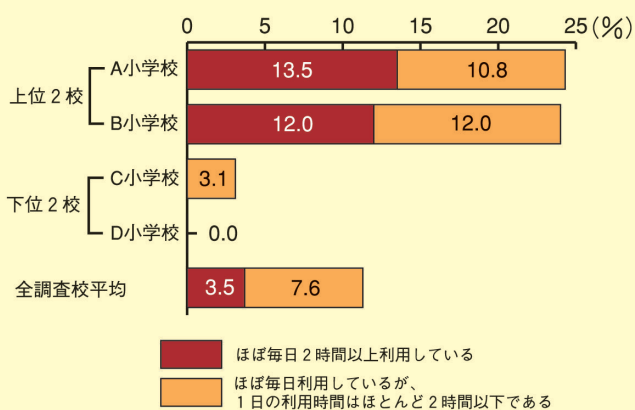


図8 家でインターネット（携帯電話を含む）をほぼ毎日利用している児童の割合の学校間の差

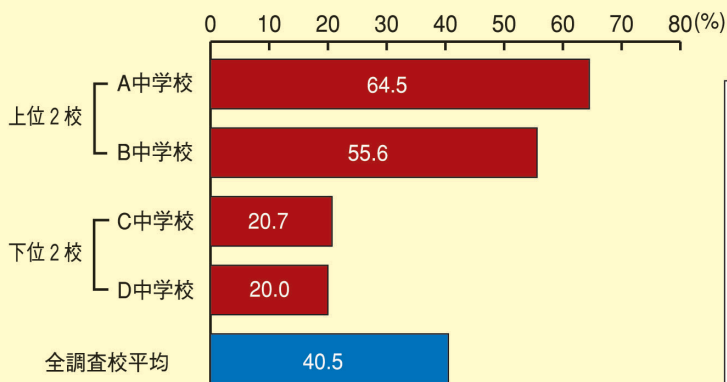


図9 自分専用の携帯電話を持っている生徒の割合の学校間の差

インターネット（携帯電話を含む）の利用方法は、小・中・高と進むにつれ、パソコン・携帯電話の両方を利用する傾向が見られます(図7)。

家でほぼ毎日インターネットを利用する児童の割合は、小学校でも、学校により利用実態が異なることわかります。また、携帯電話の所持率についても同様の傾向がみられます(図8・図9)。また、一つの学校内でも学級や学年により違いがあることも予想されます。

指導にあたっては、学校・学年・学級などで児童生徒の利用実態を掌握し、実態に応じてインターネットや携帯電話を使用する上でのマナーやルールを指導をすることが必要です。